

防 除 第 30 号
令和 8 年 8 月 25 日

各 位

三重県病害虫防除所

令和 8 年度病害虫発生予報第 5 号

このことについて、下記のとおり発表します。

担当 三重県病害虫防除所

TEL 0598-42-6365 FAX 0598-42-7568

E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

I 予報の概要

農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)	農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	平年並	果樹共通	果樹カメムシ類	多
	ツマグロヨコバイ	少	チャ	炭疽病	やや少
	トビイロウンカ	少		カンザワハダニ	やや多
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多		チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや少 ※発生時期 やや早
	吸実性カメムシ類	多		チャノミドリヒメヨコバイ	やや少
カンキツ	黒点病	平年並		チャノキイロアザミウマ	やや少
	かいよう病	平年並		クワシロカイガラムシ	やや少 ※発生時期 やや早
	ミカンハダニ	やや多	イチゴ	炭疽病	平年並
	チャノキイロアザミウマ	平年並	ネギ	シロイチモジヨトウ	やや多

Ⅱ 予報

巡回調査：8月3日から8月12日

イネ

1 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（水田・松阪市、7月第3半旬から8月第3半旬）での誘殺数は、イネカメムシ87頭（平年72.5頭）と平年並、クモヘリカメムシ5頭（平年15.8頭）と少、ミナミアオカメムシ24頭（平年30.1頭）と少（－）
- 2) 巡回調査ほ場（早期水稻）では、すくい取り調査による斑点米カメムシ類の発生ほ場率は42.1%（平年45.4%）と平年並、虫数は2.4頭（平年1.4頭）多（＋）
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並（概してやや少）（－）
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想（＋）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 病虫害防除技術情報第4号（令和8年7月10日発表）を参考にしてください。
- 2) 周辺で収穫作業がある時はほ場への侵入に注意するとともに、出穂期以降の防除を実施してください。
- 3) 薬剤散布は出穂直後とその10日後に実施してください。
- 4) 広域での一斉防除が効果的です。
- 5) 周辺ほ場の収穫状況を考慮して、ドリフトに注意してください。

2 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（畑・松阪市、7月第3半旬から8月第3半旬）での誘殺数は185頭（平年646頭）と少（－）
- 2) 巡回調査ほ場では、払い落とし調査による発生ほ場率は12.3%（平年34.7%）と少、成幼虫数は1.2頭（平年3.9頭）と少（－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は無から少（概して少）（－）
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想（＋）
- 5) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発生量が少ないので、実害は少ないと予想されます。

3 トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯での誘殺数は、松阪市、伊賀市、紀北町、御浜町のいずれも 8 月 17 日時点で未飛来 (－)
- 2) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 0% (平年 0%)、払い落とし成虫数 0 頭 (平年 0 頭) といずれも平年並に無 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生は無し (－)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 5) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発生が確認された場合には速やかに防除を行ってください。

ダイズ

1 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、葉食害度(シロイチモジヨトウ含む) 1.7 (平年 0.7) と多、白変葉か所数 0.54 か所/a (平年 0.52 か所/a) と平年並 (+)
- 2) フェロモントラップ(松阪市、7 月第 3 半旬から 8 月第 3 半旬) では、556 頭 (平年 700 頭) とやや少 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生量は無からやや少 (概して少) (－)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 5) フェロモントラップの誘殺状況及び巡回調査ほ場の調査結果から現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) こまめにほ場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。
- 2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。

2 吸実性カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯(畑・松阪市、7 月第 3 半旬から 8 月第 3 半旬)での誘殺数は、ミナミアオカメムシ 474 頭 (平年 138 頭) と多、ホソヘリカメムシ 52 頭 (平年 22.7 頭) と多、イチモンジカメムシ 65 頭 (平年 111 頭) とやや少 (+)
- 2) 大豆巡回調査ほ場では、25 株当たり寄生虫数 0 頭 (平年 0.28 頭) とやや少 (－)
- 3) 水稻巡回調査ほ場では、すくい取り調査によるミナミアオカメムシ発生ほ場率 5.3% (平年 3.5%) と多、虫数 0.05 頭 (平年 0.06 頭) と平年並 (+)
- 4) 一般ほ場では、発生量は、無から少 (概して少) (－)
- 5) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 6) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。
- 2) 薬剤散布は、9月中旬（開花20日後・莢伸長期）と10月上旬（開花40日後・子実肥大中期）の2回散布が効果的です。
- 3) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。
- 4) エチプロール剤及びジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。

カンキツ

1 黒点病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、果実発病度0(平年1.0)と少 (－)
- 2) 県予察ほ(8月上旬、興津早生、無防除)では、果実発病度36.4(平年54.1)と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (±)
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。
- 2) 9月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。

2 かいよう病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、温州みかんは春葉発病度0 (平年0.01) と少、果実発病度0 (平年0) と平年並。中晩柑は春葉発病度0.7 (平年1.8) と少、果実発病度0.07 (平年0.9) と少 (－)
- 2) 県予察ほ(8月上旬、新甘夏、無防除)では、新葉発病葉率0.5% (平年5.1%) と少、発病果率2.5% (平年22.0%) と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (±)
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。
- 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。
- 3) ミカンハモグリガの被害痕から菌が侵入しやすいため、高接樹や幼木はミカンハモグリガの防除も実施してください。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、春葉における寄生葉率 0.8% (平年 4.4%) と少、寄生虫数 0.02 頭/葉 (平年 0.3 頭/葉) と少 (－)
- 2) 県予察ほ (8 月上旬、興津早生) では、100 葉当たり寄生頭数は慣行防除区で 100 頭 (平年 13.5 頭) と多、無防除区で 3.3 頭 (平年 5.0 頭) とやや少 (±)
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや多 (+)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。
- 2) 1 葉当たりの雌成虫寄生数が 0.5 頭から 1.0 頭程度を目安に防除してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

4 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、被害果率 2.3% (平年 0.9%) と多 (+)
- 2) 県予察ほ (8 月上旬、ネーブル、無防除) では、黄色粘着トラップで誘殺数 5.0 頭/日 (平年 11.8 頭) とやや少、100 果当たり寄生虫数 0.0 頭 (平年 2.4 頭) と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が分かりにくくなるため、丁寧な観察が必要です。
- 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。

果樹共通

1 果樹カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯 (松阪市、7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬) では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 4,228 頭 (平年 935 頭)、ツヤアオカメムシ 814 頭 (平年 160 頭)、クサギカメムシ 2,130 頭 (平年 369 頭) と多 (+)
- 2) 予察灯 (御浜町、8 月上旬) では、チャバネアオカメムシ誘殺数は 8,015 頭 (平年 1,010 頭) と多 (+)
- 3) フェロモントラップ (7 月第 2 週から 8 月第 1 週) では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地 (津市白山町川口) で 5,687 頭 (平年 1,509 頭)、中間地 (津市白山町二本木) で 9,346 頭

(平成 1,662 頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 4,771 頭(平成 801 頭)と多 (+)

4) フェロモントラップ(御浜町、8月上旬)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は 1,777 頭(平成 489 頭)と多 (+)

5) 一般ほ場では、発生量はやや多 (+)

6) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平成並か少ない予想 (+)

7) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病虫害発生予察注意報第 3 号(令和 8 年 8 月 7 日発表)を参考にしてください。

2) 例年飛来が多く見られるほ場では、ほ場内の観察をきめ細かく行ってください。

3) 台風などの強風後に、急にほ場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキほ場等では、発生状況に十分に注意してください。

4) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。

チャ

1 炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病葉数 0.1 枚/㎡(平成 0.2 枚/㎡)とやや少 (-)

2) 一般ほ場では、発生量はやや少 (-)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平成並か少ない予想 (±)

4) 現在の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

1) 防除時期は秋芽 1 葉から 2 葉開葉期です。

2) 三番茶期から秋番茶期にかけて増加します。

3) 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨の後には治療剤で防除してください。

4) 治療剤(EBI 剤など)は耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

2 カンザワハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率 0.1%(平成 1.2%)と少、寄生頭数 0.001 頭/葉(平成 0.04 頭/葉)と少 (-)

2) 県予察ほ(亀山市、7 月下旬から 8 月中旬)では、寄生葉率 31.0%(平成 4.7%)と多、寄生頭数 3.0 頭/葉(平成 0.6 頭/葉)と多 (+)

3) 一般ほ場では、発生量はやや多 (+)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)

5) 一般ほ場の結果から現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息しています。

2) 寄生葉率が高い場合は丁寧に薬剤散布してください。

3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

3 チャノホソガ

(1) 予報内容 発生量：やや少

発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、巻葉数 0 枚/㎡ (平年 0.8 枚/㎡) と少 (－)

2) 県予察ほ(亀山市)では、第 3 世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは 7 月第 1 半旬(平年 7 月第 2 半旬)とやや早

3) 県予察ほフェロモントラップ(7 月第 4 半旬から 8 月第 3 半旬)では、誘殺数 50.3 頭(平年 900.4 頭)と少 (－)

4) 一般ほ場では、発生量はやや少 (－)

5) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)

6) 発生時期はフェロモントラップの誘殺ピークを考慮してやや早と予想されます。また、一般ほ場の結果から現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

1) 新芽開葉初期のふ化幼虫(潜葉期、絵描き状態)を対象に防除してください。

2) 三重県農業研究所(茶業研究課)ホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。

3) ハマキムシ類の間接暴露による薬剤抵抗性の発達を避けるため、ジアシルヒドラジン系 IGR 剤、ジアミド剤の使用回数は最大年 1 回までとしてください。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 0.06 頭(平年 1.2 頭)と少 (－)

2) 県予察ほ黄色粘着トラップ(亀山市、7 月第 4 半旬から 8 月第 3 半旬)では、捕殺数 4.3 頭(平年 25.5 頭)と少 (－)

3) 一般ほ場では、発生量はやや少 (－)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)

5) 一般ほ場の結果から現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育停止します。

- 2) 晴天が続くと発生が多くなります。
- 3) 秋芽の開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。

5 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
 - 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 1.0 頭（平年 3.7 頭）と少 （－）
 - 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ（亀山市、7 月第 4 半旬から 8 月第 3 半旬）では、捕殺数 708.9 頭（平年 1,382.1 頭）と少 （－）
 - 3) 一般ほ場では、発生量はやや少 （－）
 - 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 （＋）
 - 5) 一般ほ場の結果から現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。
- (3) 防除対策
 - 1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。
 - 2) 晴天が続くと発生が多くなります。
 - 3) 秋芽の萌芽期から開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。

6 クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少
発生時期：やや早
- (2) 予報の根拠
 - 1) 巡回調査ほ場では、雄繭寄生株率 6.5%（平年 9.6%）と少、雌成虫寄生株率 1.2%（平年 5.7%）と少 （－）
 - 2) 県予察ほ場（亀山市）の第 2 世代幼虫ふ化最盛期は 7 月 13 日（平年 7 月 16 日）とやや早
 - 3) 一般ほ場では、発生量はやや少 （－）
 - 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 （－）
 - 5) 第 2 世代幼虫ふ化最盛期の結果及び今後の気象条件を考慮して、第 3 世代幼虫ふ化最盛期はやや早と予想されます。また、一般ほ場の結果から現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。
- (3) 防除対策
 - 1) 病虫害防除技術情報第 3 号（令和 8 年 7 月 9 日発表）を参考にしてください。
 - 2) 防除適期はふ化最盛期直後です。
 - 3) この時期はばらつきが大きくなるためほ場で幼虫のふ化を確認してから防除してください。
 - 4) 天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。

イチゴ

1 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0 % (平年 0.2 %) と少 (-)
- 2) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並 (概して平年並) (±)
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 4) 一般ほ場の結果から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。
- 2) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。
- 3) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

ネギ

1 シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、青ネギにおけるシロイチモジヨトウの被害葉率が 2.0 % (過去 10 年平均 0.8 %) 、白ネギにおける被害葉率が 2.5 % (過去 9 年平均 0.4 %) と多 (+)
- 2) 県予察ほフェロモントラップ (松阪市、7 月第 4 半旬から 8 月第 3 半旬) では、誘殺数は 225 頭 (平年 94.9 頭) と多 (+)
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少からやや多 (概して平年並) (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 病害虫防除技術情報第 5 号 (令和 8 年 8 月 21 日発表) を参考にしてください。
- 2) 幼虫の発生は 8 月から 10 月に多くなります。
- 3) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。
- 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

Ⅲ 気象予報

東海地方 1 か月予報（令和 8 年 8 月 20 日 名古屋地方気象台発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

高気圧に覆われやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

1 週目 8 月 22 日～28 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2 週目 8 月 29 日～9 月 4 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
3～4 週目 9 月 5 日～18 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

Ⅳ その他

- ・本冊子の見方を説明した「病虫害発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001257461.pdf>

- ・予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>